

日作協発 第 612 号
平成 30 年 3 月 5 日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室 御中

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中 村 春 基



第53回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会の活動にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、2月25日に実施されました第53回作業療法士国家試験問題につきまして全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、196校(206課程)中127校(65%)から「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい7つの問題（午前3問題、午後4問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記いたしました。

ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

謹 白

記

- I 複数の解が選択できると思われる6問題（午前5・66、午後59・74・86・90）について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる1問題（午前10）について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料1参照）。
- II その他の意見
用語や設問の表現が不適切であり選択肢の理解に戸惑う1問題（午前82）、消去法や優先順位等から解は選べるものの該当すると言い切れない2問題（午前58、午後2）があると考えます。

第53回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成30年2月25日実施)

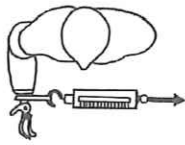
午前 問題

問題番号 (5)

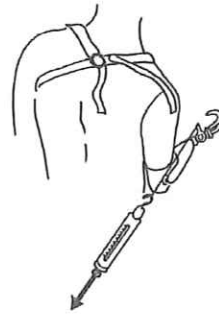
5 上腕能動義手の適合検査において、コントロールケーブルシステムの操作効率をチェックする計算式を以下に示す。

$$\text{コントロールケーブルシステムの操作効率 (\%)} = A/B \times 100$$

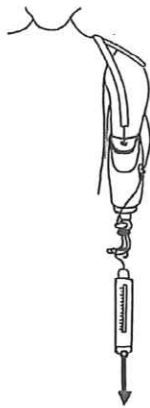
Aにあたる計測はどれか。



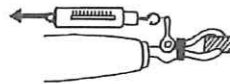
1



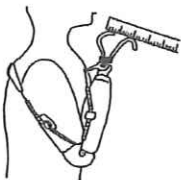
2



3



4



5

解：4、5（複数の解が選択できる）

理由

選択肢「1」、「2」、「3」は誤っている。

「コントロールケーブルシステムの操作効率」の用語が不明確である。「操作効率」または「コントロールケーブルシステムの伝達効率」が正しい表記となるが、

文献1よりコントロールケーブルシステムの伝達効率は、
「伝達効率＝（手先具単体で開くときの力）／（ケーブルシステムを介して開くときの力）×100」
であるため、選択肢「4」は正しい。

また、文献2より操作効率を求める場合には、

「操作効率＝（手先具を最大に開かせたときの開き幅）／（手先具単体での最大開き幅）×100」
であるため、選択肢「5」も正しい。

したがって、選択肢「4」と「5」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 日本整形外科学会：義肢装具のチェックポイント 第8版. 医学書院. pp108, 2014.
2. 大場潤平, 西村誠次, 柴田八衣子：義肢装具と作業療法. 医歯薬出版. p57-58, 2017.

第53回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

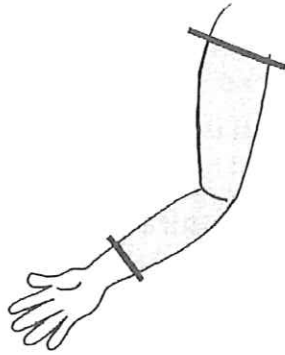
(平成30年2月25日実施)

午前 問題

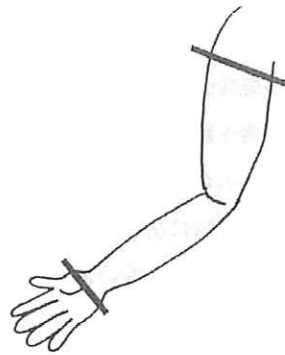
問題番号 (10)

10 尺骨の骨幹部骨折での固定範囲で正しいのはどれか。

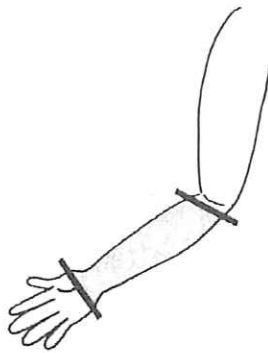
/



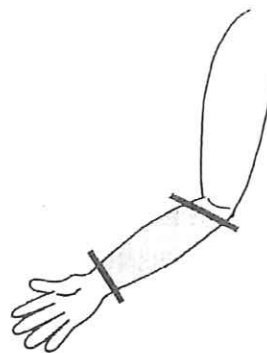
1



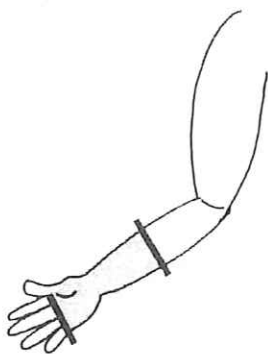
2



3



4



5

解なし

理由

文献1、2によれば、尺骨骨折の治療において「転移の少ない尺骨単独骨折は上腕からMP関節までギブス固定を行う」と明記されている。選択肢には上腕からMP関節まで固定しているものがない。

したがって、提示された選択肢からは解を選択することができない。

参考とする文献

1. 広畑和志他：標準整形外科学 第5版. 医学書院. pp382, 1994.
2. 松野丈夫, 中村利孝他：標準整形外科学 第12版. 医学書院. pp788, 2014.

第53回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成30年2月25日実施)

午前 問題	問題番号 (66)
<p>66 排尿機構について正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 排尿時には内尿道括約筋が収縮する。2. 膀胱に尿が溜まり始めるとすぐに尿意を感じる。3. 尿道を尿が通る知覚は排尿筋の収縮を抑制する。4. 膀胱括約筋はノルアドレナリンの作用で収縮する。5. 排尿を我慢するときには大脳皮質から抑制がかかる。 <p>解：4、5（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>問題文には1つ選べとあるが、正答は選択肢「4」と「5」である。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 排尿時は内尿道括約筋が弛緩するため誤り2. 膀胱に尿が150～200mlくらいたまると尿意を感じるため誤り3. 尿道を尿が通る知覚は排尿筋の収縮を抑制しないため誤り4. 膀胱括約筋は内尿道括約筋であり、ノルアドレナリンの結合作用で収縮するので正しい5. 排尿を我慢するときには大脳皮質から抑制がかかるので正しい <p>したがって、選択肢「4」と「5」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 岡田隆夫, 長岡正範執筆：標準理学療法学・作業療法学 生理学. 医学書院. pp144, 2013.2. 小澤澗司, 福田康一郎編集：標準生理学. 医学書院. pp731, 2014.	

第53回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成30年2月25日実施)

午後 問題	問題番号 (59)
<p>59 平衡聴覚器の構造で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 鼓室は外耳にある。2. 骨迷路は内耳にある。3. 耳管は内耳にある。4. ツチ骨は中耳にある。5. 膜迷路は中耳にある。 <p>解：2、4（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>選択肢「1」、「3」、「5」は誤っている。 文献1～4によれば、選択肢「2」の骨迷路は内耳に、選択肢「4」のツチ骨は中耳にあると明記されている。</p> <p>したがって、選択肢「2」と「4」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 坂井建男, 河田光博：プロメテウス解剖学アトラス頭頸部/神経解剖 第2版. 医学書院. p132-135, 2014.2. 伊藤隆：解剖学講義 第3版. 南山堂. p546-554, 2012.3. 塩田浩平, 秋田恵一：グレイ解剖学 原著第3版. エルゼビア・ジャパン. p792-799, 2016.4. 内山安男, 養老孟司：新体系看護学 第1巻 人体の構造と機能① 解剖生理学. メヂカルフレンド社. p457-459, 2003.	

第53回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成30年2月25日実施)

午後 問題	問題番号 (74)
<p>74 運動学習について正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 動機付けが高いほどパフォーマンスが向上する。2. 覚醒レベルが高いほどパフォーマンスが向上する。3. 学習によるパフォーマンスの向上は直線的に起こる。4. 2種類の運動課題間に類似性があるほど転移の影響は大きくなる。5. パフォーマンスの向上がみられなくなることは運動学習の停止を意味する。 <p>解：1、4（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>選択肢「2」、「3」、「5」は誤っている。 文献1によれば、パフォーマンスに対して動機付けと技能は相乗効果を示し、パフォーマンス=動機付け×技能、の式で示される、としているため、選択肢「1」は正しい。 また、学習の転移では、2種類の運動課題間に類似性があるほど転移の影響は大きくなる、としているため、選択肢「4」も正しい。</p> <p>したがって、選択肢「1」と「4」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 中村隆一, 齋藤宏, 長崎浩：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版. p472-473, 2003.	

第53回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成30年2月25日実施)

午後 問題	問題番号 (86)
<p>86 変形性膝関節症の進行に伴う関節構成体の変化で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 滑膜の肥厚2. 骨嚢胞の消失3. 軟骨下骨の肥厚4. 関節裂隙の拡大5. 関節靭帯の緊張 <p>解：1、3 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <p>選択肢「2」、「4」、「5」は誤っている。 文献1によれば、変形性関節症の進行とともに滑膜炎が生じ、滑膜表層細胞は増生、滑膜ヒダが増殖、関節包は肥厚する。また、変形性関節症の末期では、軟骨層が完全に消失し軟骨下骨が表面に露出、そこに力学的ストレスが直接かかり、刺激によって軟骨下骨が肥厚し磨かれ、象牙質化を認めるようになると言われている。</p> <p>したがって、選択肢「1」と「3」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 中村利孝, 松野丈夫：標準整形外科学 第13版. 医学書院. p67-68, p268-271, 2017.	

第53回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成30年2月25日実施)

午後 問題	問題番号 (90)
<p>90 神経麻痺と起こり得る症状の組合せで正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 腋窩神経麻痺——下垂指2. 肩甲上神経麻痺——Phalen徴候3. 前骨間神経麻痺——涙滴徴候4. 大腿神経麻痺——下垂足5. 副神経麻痺——翼状肩甲 <p>解：3、5（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>選択肢「1」、「2」、「4」は誤っている。 文献1、2、3によれば、前骨間神経麻痺では長母指屈筋と示指深指屈筋の麻痺により涙滴徴候tear drop signが陽性となるとあり、選択肢「3」は正しい。 文献1によれば、翼状肩甲骨は僧帽筋麻痺や前鋸筋麻痺を疑うとあり、僧帽筋は副神経支配であるため、また文献4によれば、副神経麻痺では側方へ挙上しようとする翼状肩甲骨を呈するとあり選択肢「5」も正しい。</p> <p>したがって、選択肢「3」と「5」の複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1. 中村利孝, 松野丈夫監修：標準整形外科学 第13版. 医学書院. pp428, pp457, 2017.2. 矢谷令子監修：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院. pp266, 2016.3. 矢谷令子監修：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学. 医学書院. pp338, 2017.4. 高橋邦泰, 芳賀信彦編集：整形外科学テキスト改訂第3版. 南江堂. p286-287, 2011.	